

2021年3月期（2020年度） 第2四半期 決算説明資料

2020年11月

JASDAQ : 3423

 株式会社 **エスイー**

1. 2020年度第2四半期 連結決算実績
2. セグメント別の状況
3. 中期経営計画の進捗状況

1. 2020年度第2四半期 連結決算実績
2. セグメント別の状況
3. 中期経営計画の進捗状況

第2四半期連結決算実績サマリー（前年同期比）

サマリー

前年同期比～減収減益

建設用資機材の製造・販売事業は好調維持するも、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、経常利益はほぼ前年同期並み
親会社株主に帰属する四半期純利益は有価証券評価損により大幅減

（単位：百万円） ・売上高

	2019年度 2Q	2020年度 2Q	増減（増減率）
売上高	10,798	10,149	▲648（▲6.0%）
営業利益	379	359	▲20（▲5.5%）
（対売上高比）	（3.5%）	（3.5%）	（+0.0%）
経常利益	367	369	+1（+0.3%）
（対売上高比）	（3.4%）	（3.6%）	（+0.2%）
親会社株主に帰属する 四半期純利益	143	95	▲48（▲33.7%）
（対売上高比）	（1.3%）	（0.9%）	（▲0.4%）

- 建設用資機材の製造・販売事業は好調を維持したものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、建築金物分野・建設コンサルタント事業で大幅減。

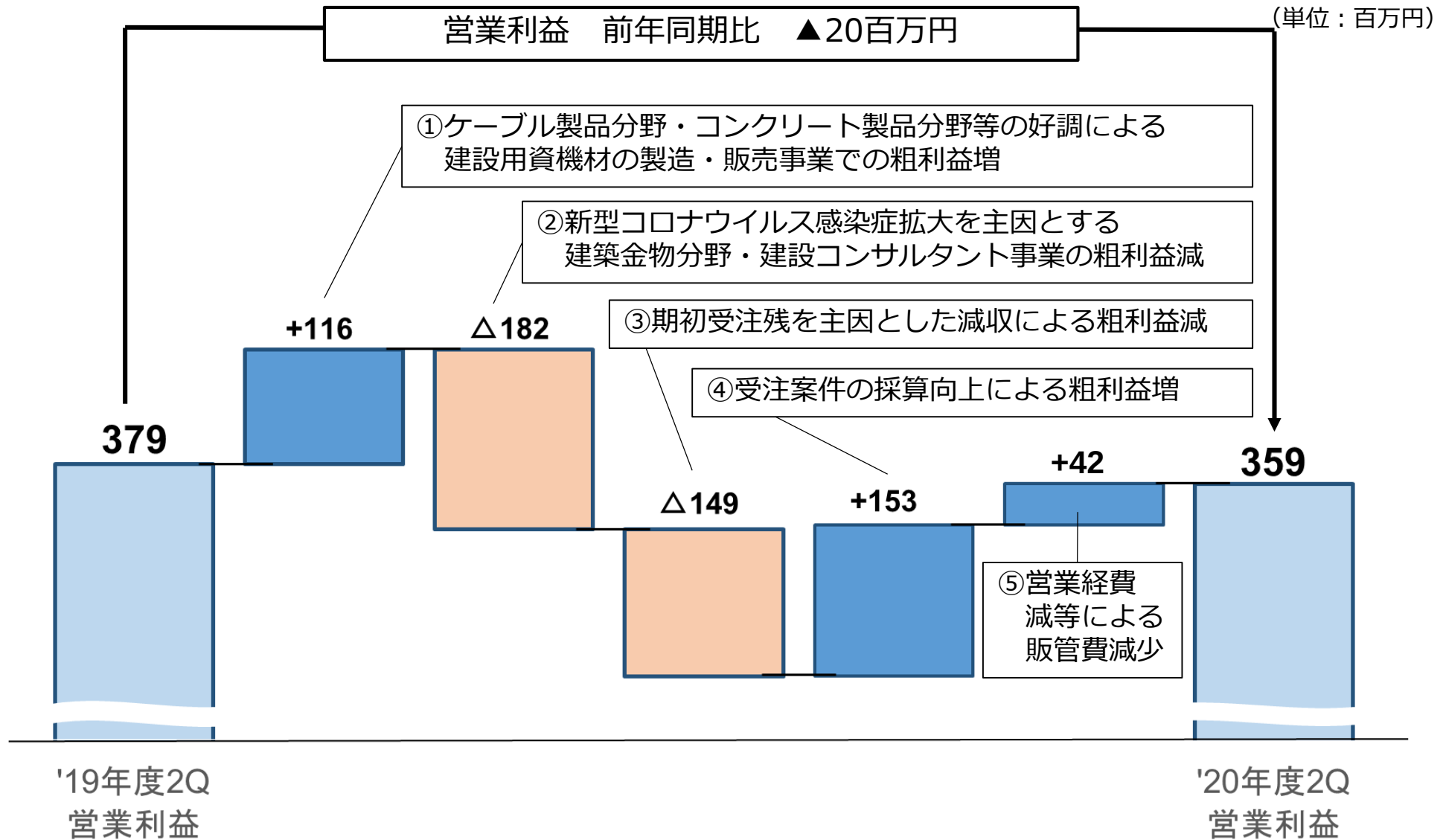
- その結果、全体では前年同期比▲6.0%の減収となった。

・利益

- 上記減収要因を主因として、営業減益となったが、経常利益ではほぼ前年同期並み。

- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、ベトナム・バックダン橋事業運営会社株式の評価損計上により大幅減少。

第2四半期連結決算実績サマリー（営業利益増減） 株式会社 エスイー



- ・当社グループと関連の深い建築・土木市場においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定された工事等が延期・中止になるなどの影響が一部において発生。
特に内装工事部門は、内装工事が激減しており、今年度の回復は見通せない状況。
- ・海外業務については現地経済活動の停滞や渡航制限により、売上減少等の影響を受けている。
感染抑制に効果を上げている国から徐々に正常化へ向けた動きがでてくると予想。

[新型コロナウイルス感染症の影響(現状と今年度予想)]

セグメント	2020年度 上半期結果	コロナによる 売上への影響 (概算値)
建設用資機材	・ 公共工事関連では大きな影響は無い ・ 海外工事の遅延・中断による輸出の減少	▲2.4億円
建築用資材	・ 民間建築工事の遅延・中断 ・ 内装工事の激減	▲6億円
建設コンサルタント	・ 海外現地活動の制限 ・ JICA案件の発注停滞、実施延期	▲2.2億円
補修・補強	・ 受注工事の一部遅延	大きな影響なし



2020年11月時点

2020年度 下半期予測	コロナによる 通期売上への影響 (概算見積)
・ 上半期と同様に公共関連は大きな影響なし ・ 輸出は若干の回復	▲4億円
・ 鉄骨工事は上半期予定分を計上 ・ 内装工事は激減のまま	▲8億円
・ JICA案件は下半期後半に再開 本格化、促進に注力	▲3.4億円
・ 上半期の工事遅延による新規受注減 ・ 緊急性のない高速道路工事減額	▲1.3億円

2021年3月期連結業績予想の修正

・新型コロナウイルス感染症の影響、ベトナム・バックダン橋事業運営会社株式の評価損、災害対応案件・耐震補強案件等建設用資機材部門の好調等を勘案し、2021年3月期連結業績予想を修正（2020年10月26日公表）。

[予想修正内容と要因]

(単位：百万円)

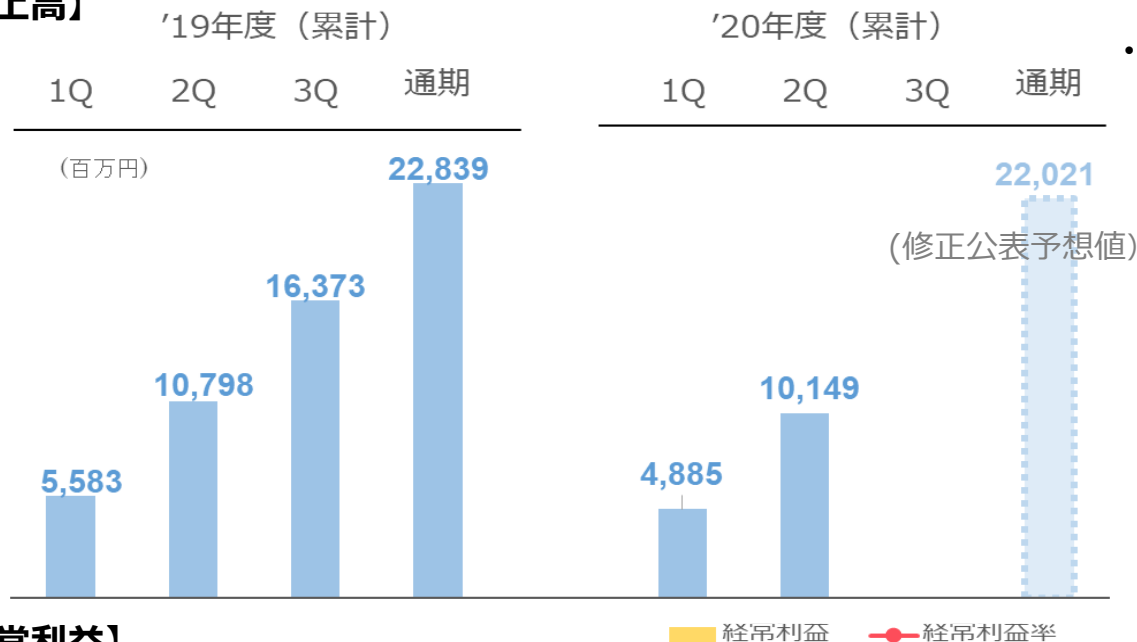
			2021/3期 予想			
			修正前 5月15日公表	主な修正要因	修正後 10月26日公表	修正幅
2020/3期 (実績)						
売上高		22,839	23,000	(下記)	22,021	△978
営業利益		1,064	728		690	△38
経常利益		1,063	700		689	△11
親会社株主に帰属する当期純利益		270	400		228	△171
建設用資機材の 製造・販売事業	売上高	10,803	10,991	+ 災害案件・耐震補強 等好調 △ <コロナ> 海外輸出減	11,274	+283
	営業利益	834	536		790	+254
	営業利益率	7.7%	4.9%		7.0%	+2.1%
建築用資材の 製造・販売事業	売上高	9,223	9,130	△ <コロナ> 民間建築 (建築延期・中止) (内装工事激減)	8,334	△796
	営業利益	433	451		278	△173
	営業利益率	4.7%	4.9%		3.3%	△1.6%
建設コンサル タント事業	売上高	620	850	△ <コロナ> 海外現地 活動停滞 (JICA業務再開見通)	513	△337
	営業利益	△22	37		△66	△103
	営業利益率	-	4.4%		-	-
補修・補強工 事業	売上高	2,191	2,029	△ 豪雨災害等による 工期調整 △ <コロナ> 追加工事減	1,900	△129
	営業利益	200	181		161	△20
	営業利益率	9.1%	8.9%		8.5%	△0.5%

第2四半期連結決算実績サマリー(修正公表予想比) 株式会社 エスイー

サマリー

セグメント別の濃淡はあるものの連結全体の計数はまずまずの進捗

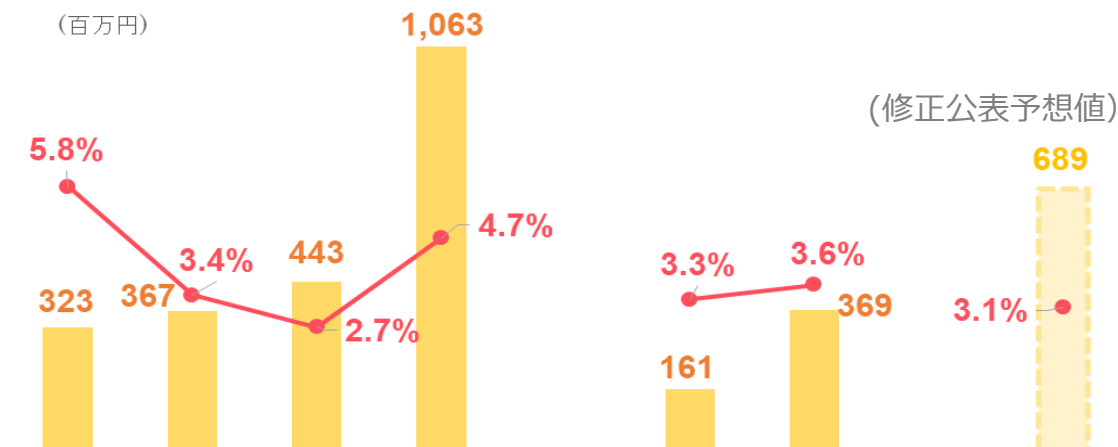
【売上高】



・売上高

- 年度を通じて上半期までが新型コロナウイルス感染症の影響が最も大きくなると予想され、今後の回復を想定すれば、現時点での実績は全体としてはまずまずの水準。

【経常利益】



・利益

- 第2四半期では昨年並みの水準を維持しており、引続き採算改善・経費節減により業績予想値の達成を見込む。

連結貸借対照表サマリー

サマリー

株主配当金の支払により純資産は減少、運転資金負担減により有利子負債は減少

(単位：百万円)

資産			負債		
2020年 3月末	2020年 9月末	増減	2020年 3月末	2020年 9月末	増減
22,031	21,325	(主な内訳) +477 現金及び預金 △1,053 受取手形及び売掛金 △484 電子記録債権 +149 仕掛品	13,704	13,095	(主な内訳) △512 支払手形及び買掛金 △286 社債及び借入金 +214 その他流動負債 △609
					純資産
			2020年 3月末	2020年 6月末	増減
			8,326	8,230	(主な内訳) +95 親会社帰属四半期純利益 △299 株主配当金支払い +101 有価証券評価差額金 △96
		△705			

	2020年3月末	2020年9月末	増減
運転資本 (百万円)	5,115	4,320	△794
有利子負債 (百万円)	5,470	5,243	△226
純資産 (百万円)	8,326	8,230	△96
自己資本比率 (%)	37.6	38.5	+0.9
D/Eレシオ (倍)	0.66	0.64	△0.02

①前年度末にかけて積み上がった売上債権の回収

②運転資金減により、有利子負債は減少

キャッシュ・フローの状況

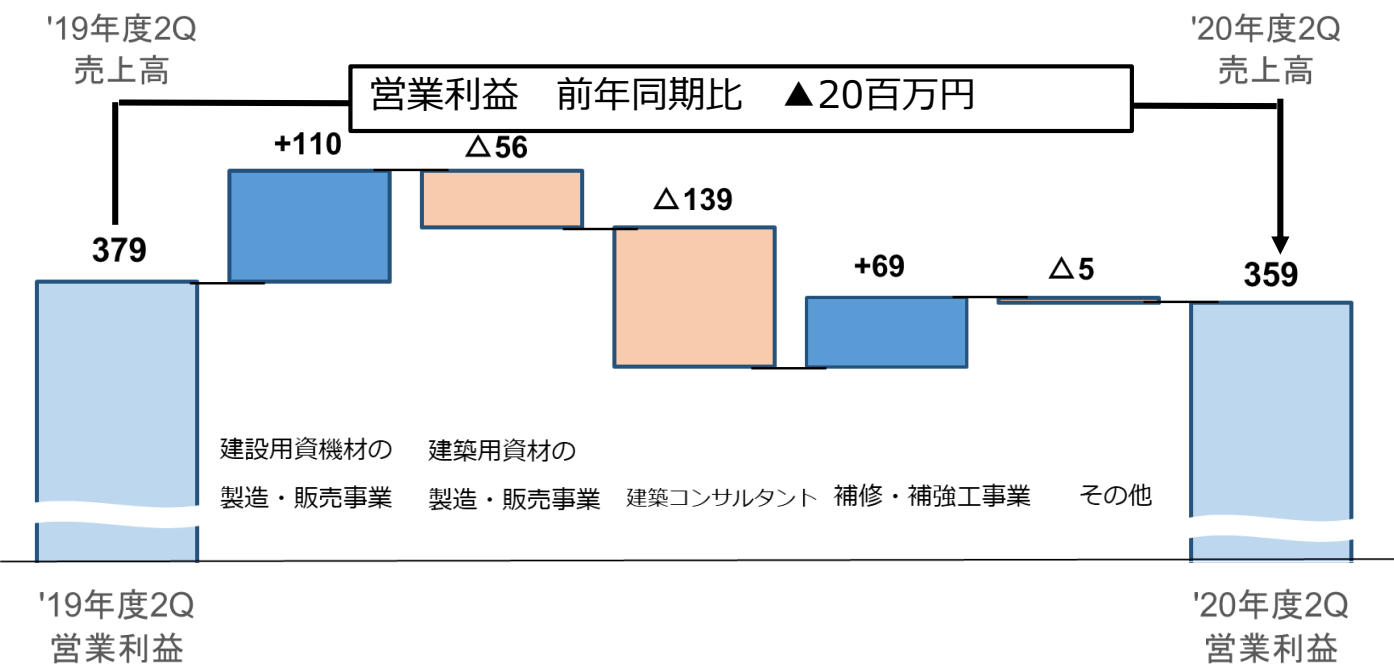
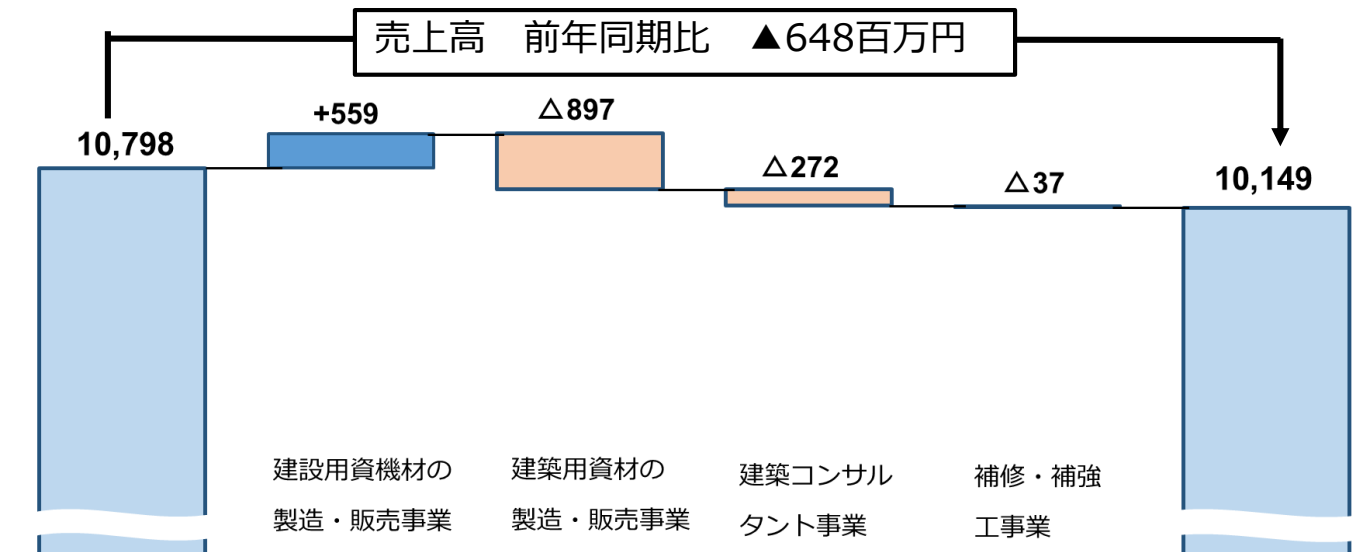
サマリー 運転資金負担の減少により、FCFは大幅なプラス。借入等を圧縮。

		(百万円)			
		'19年度2Q	'20年度2Q	増減	
	営業収入 (税金等調整前当期純利益 + 非資金損益項目)	498	669	+170	[主な要因] 前年度末にかけて積み上がった売上債権の回収が進展
	運転資金 (営業活動に係る債権債務増減)	76	960	+884	
	利息・配当金	△14	△10	+4	
	税金等	△178	△268	△90	
	その他	△195	7	+203	
	営業キャッシュフロー	187	1,359	+1,171	
営業キャッシュフロー (除く運転資金)		110	398	+287	
	定期預金	△7	△6	+0	工場設備増強 (建設仮勘定・リース) 営業拠点等移転関連 (入居保証金等)
	有価証券	△2	△2	+0	
	固定資産 (除く有価証券)	△488	△173	+314	
	その他	0	△83	△83	
投資キャッシュ・フロー		△497	△265	+231	
フリーキャッシュ・フロー (FCF)		△309	1,093	1,403	
	借入・社債	△406	△286	+119	配当金の支払い
	株式	△298	△298	+0	
	リース	△22	△35	△13	
財務キャッシュ・フロー		△727	△621	+105	
現金及び現金同等物の期末残高		3,778	3,576	△201	

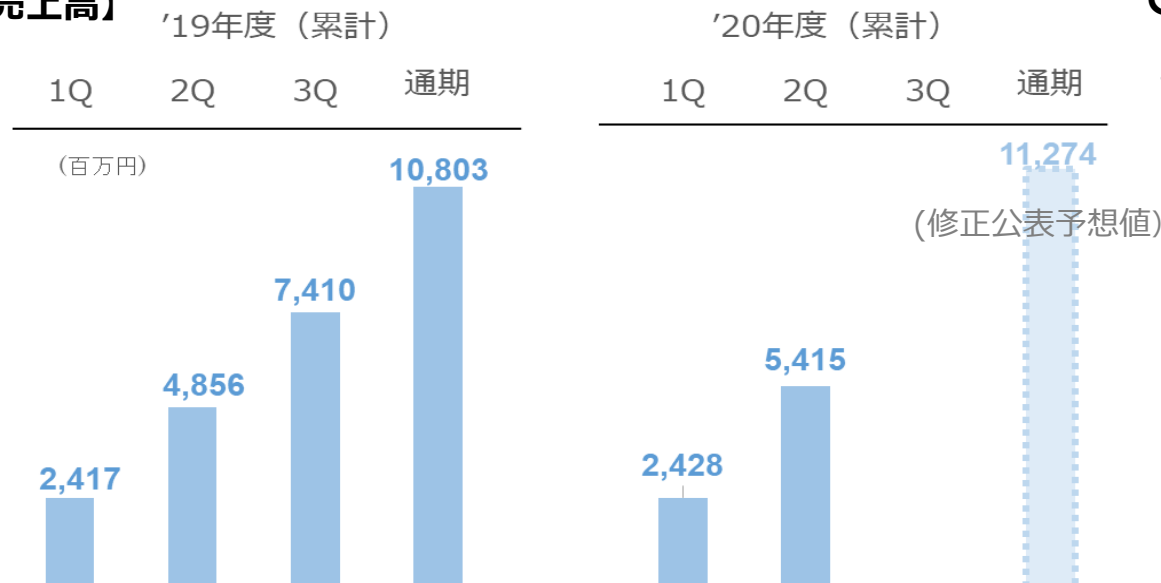
1. 2020年度第2四半期 連結決算実績
2. セグメント別の状況
3. 中期経営計画の進捗状況

セグメント別増減（前年同期比）

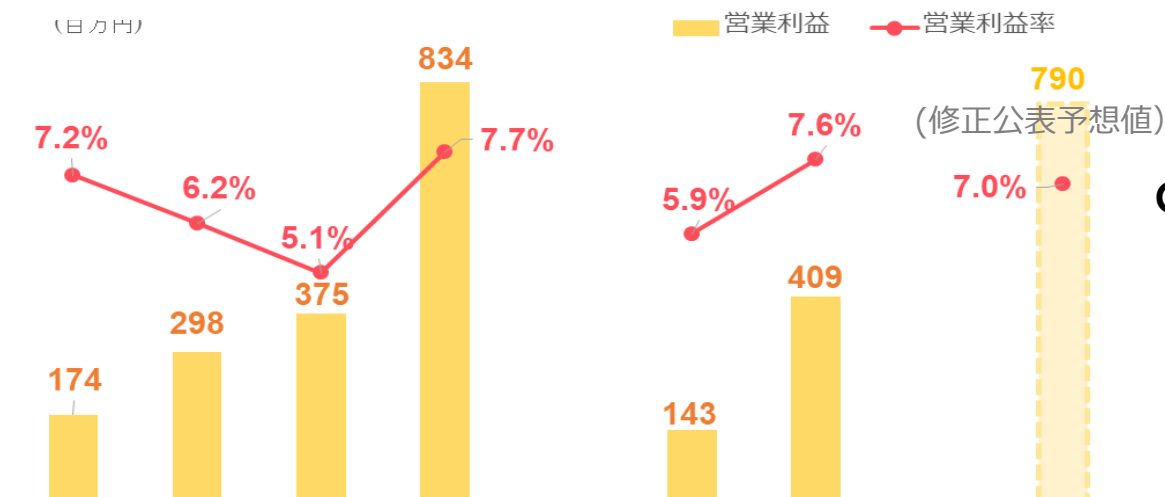
（単位：百万円）



【売上高】



【営業利益】



○前年同期比～増収増益

・売上高

- ケーブル製品分野『グラウンドアンカー』及び鉄鋼製品分野『KIT受圧板』の豪雨災害対策工事を中心とした製品販売、落橋防止装置等橋梁耐震補強製品の販売、コンクリート製品分野での河川災害用ブロック等の販売が好調。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、海外向け資材販売が低調だったものの、全体では前年同期比11.5%増の増収。

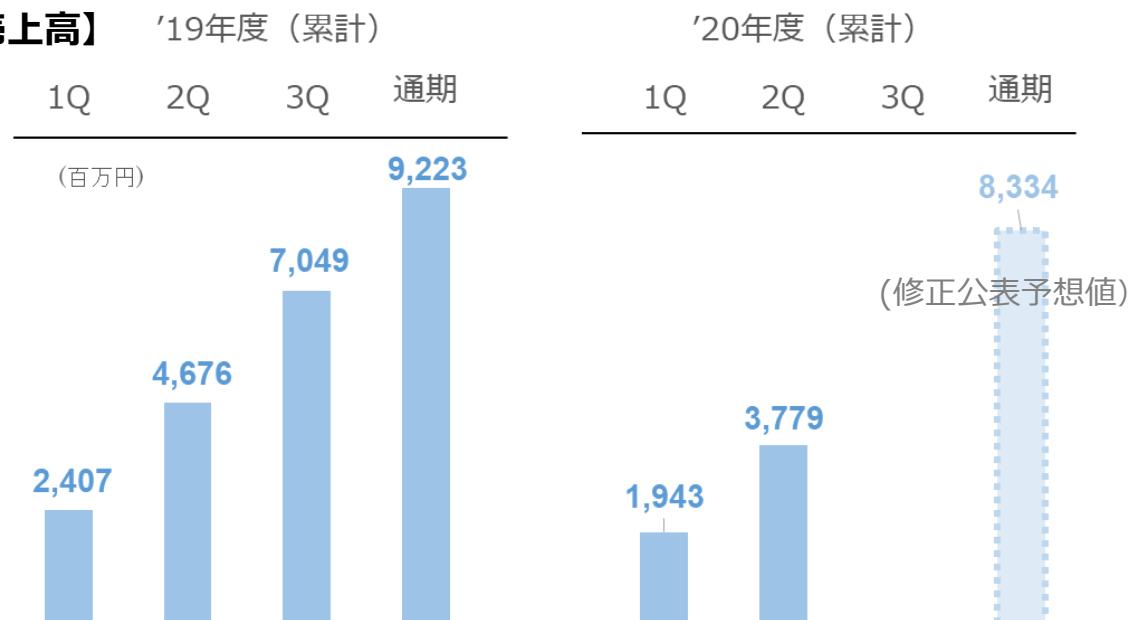
・利益

- 増収効果により前年同期比36.9%増の大幅増益を達成。

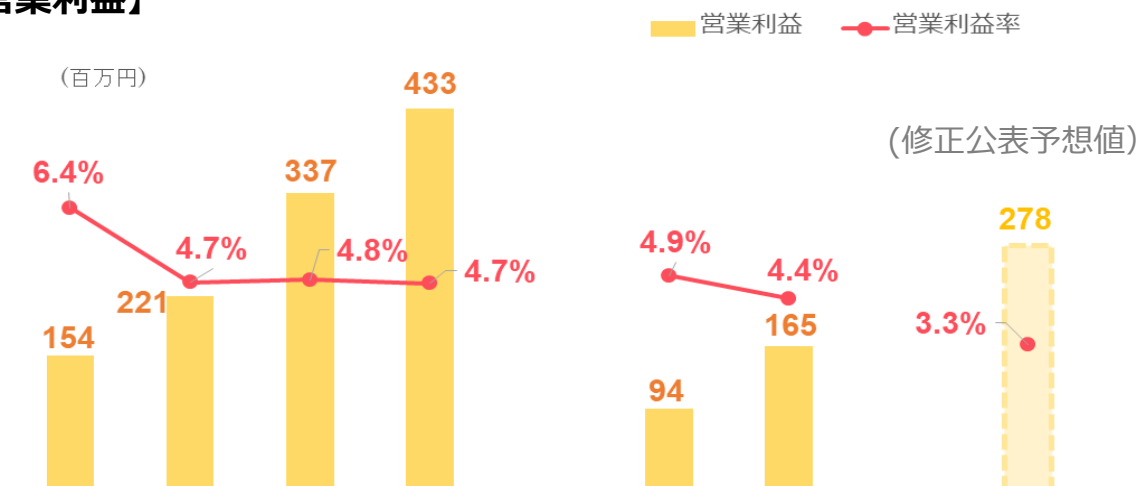
○公表予想比～好調を維持、引続き採算改善・経費節減に注力

- 海外向け以外は好調を維持。引続き採算改善・経費節減に注力。公表予想値は十分可能な状況。

【売上高】



【営業利益】



○前年同期比～減収減益

・売上高

- 建築金物分野において、新型コロナウイルス感染症の影響により内装関連工事が減少、吊りボルト等の売上が大きく落ち込んだ。
- 鉄骨工事分野は期初受注残が前年度より少なかったことによる減収。

・利益

- 減収の影響が大きく、採算改善・販管費抑制でカバーを試みるも、減益。

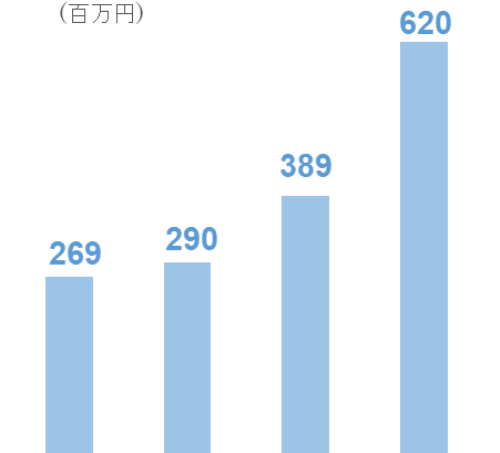
○公表予想比～利益重視で対応

- 建築金物分野は新型コロナウイルス感染症の影響で上期並みの落込みを想定。
- 受注競争が激しくなるが、過度に売上を追わず、利益重視で対応。

【売上高】 '19年度（累計）

1Q 2Q 3Q 通期

(百万円)



'20年度（累計）

1Q 2Q 3Q 通期

513
(修正公表予想値)



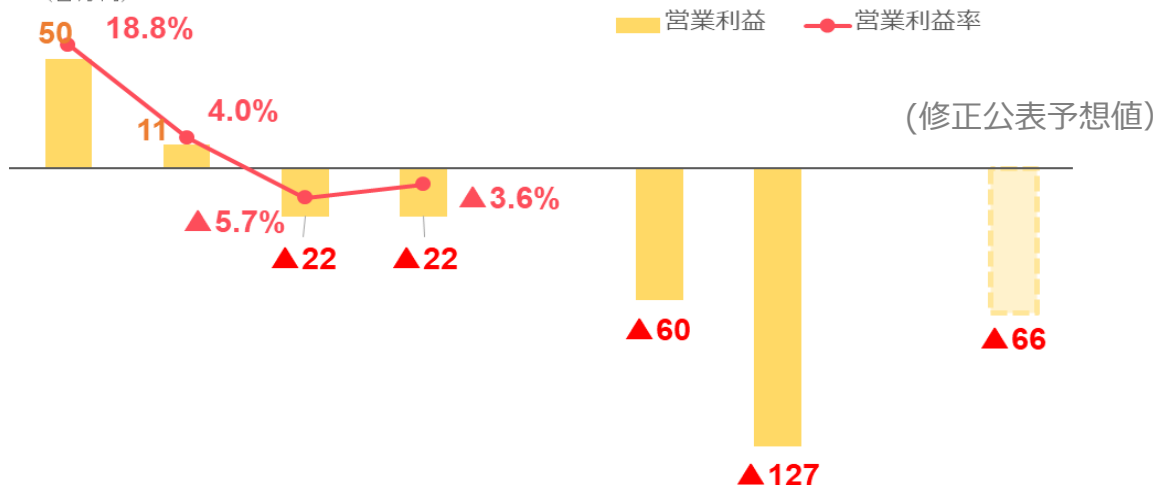
○前年同期比～大幅減収減益

・売上高・利益

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で海外現地活動の中断及び来期への繰越しが発生し、ほぼ売上がたたない状況。
- 受注拡大、国内BIM/CIM事業に注力。

【営業利益】

(百万円)



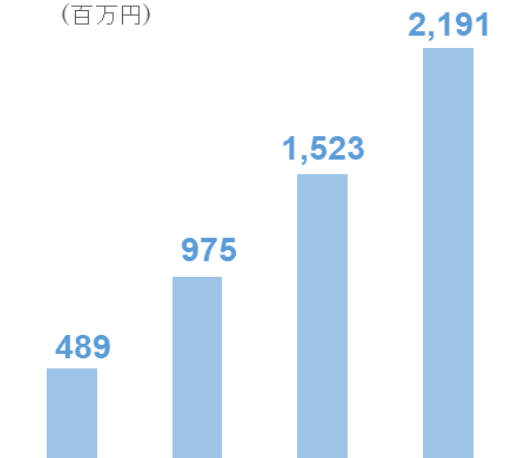
○公表予想比～案件再開本格化の時期・状況に大きく依存

- JICA関連業務の再開が本格化するのには4Q以降となる想定。
- 受注拡大、工期再開時の迅速な対応を推進、上期の遅れを可能な限りカバーしていく。

【売上高】 '19年度（累計）

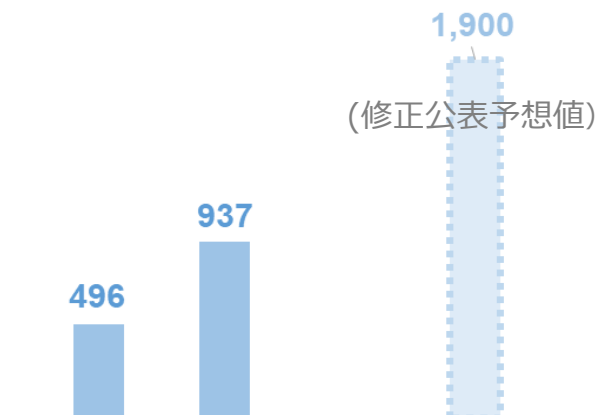
1Q 2Q 3Q 通期

(百万円)



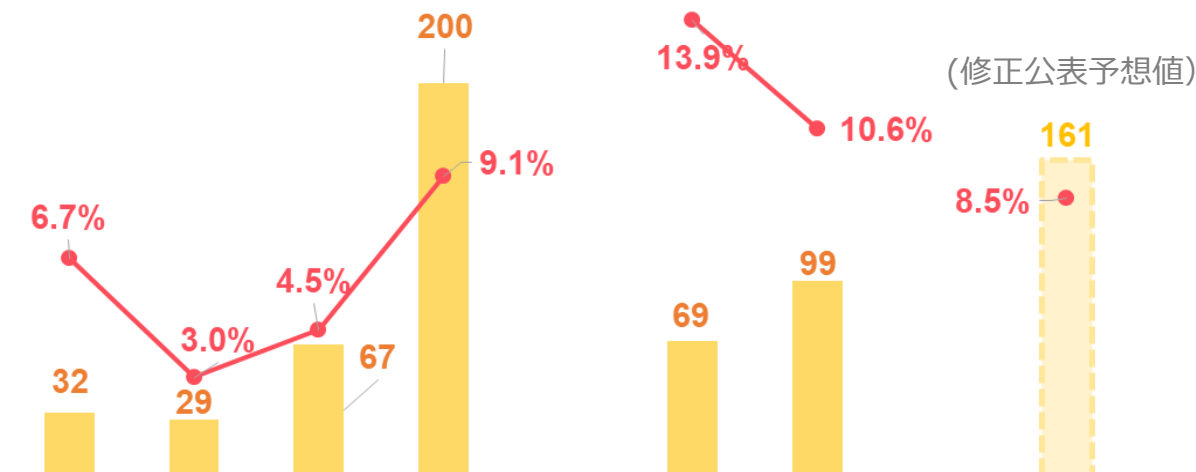
'20年度（累計）

1Q 2Q 3Q 通期



【営業利益】

営業利益 営業利益率



○前年同期比～減収大幅増益

・売上高・利益

- 国土強靱化や橋梁耐震補強等市場環境の追い風を背景に、好調を維持。但し、新規受注は豪雨災害等で工期調整が必要になり、やや苦戦。
- 新型コロナウイルス感染症拡大による工事中断があったものの、期初受注残を順調に消化。
- 採算重視の選別受注で前年同期比 ▲3.8%の減収となったが、追加工事の増額や材料販売により前年同期比 238.0%の増益となった。

○公表予想比～下期はやや苦戦を想定

- 売上高・利益ともに基本は堅調だが、上期の工期調整の影響で受注面が苦戦。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、発注元が追加工事を厳しく選別、利益率の低下を予想。

1. 2020年度第2四半期 連結決算実績
2. セグメント別の状況
3. 中期経営計画の進捗状況

中期経営計画（2020-2022）の位置付けと概要

・本中期経営計画は、「新たな価値創造」に向けた投資と既存事業の「収益体質強化」の両立期

(億円)	2019年度	戦略・施策	2022年度
売上高	228	1. 経営資源の戦略的投入	260
経常利益	10.6	2. 既存事業基盤再構築と新たな価値の創造	16.0
親会社株主帰属 当期純利益	2.7	3. 持続的な企業価値の 向上のための経営基盤 の強化	10.2
営業利益率	4.7%		6.2%
ROE	3.2%		10%超
株主資本配当率	3.7%		3.5%目安

中期経営計画
2020～2022

これまでの
中期経営計画

事業領域拡大による
売上利益の拡大

大きな成長に向けた
設備や人材への投資

新たな価値創造に
向けた仕込みとの両立

次期中期
経営計画以降

「新たな価値」の成長

新しい事業基盤の確立

新事業基盤での拡大

2030ビジョン
ありたい姿

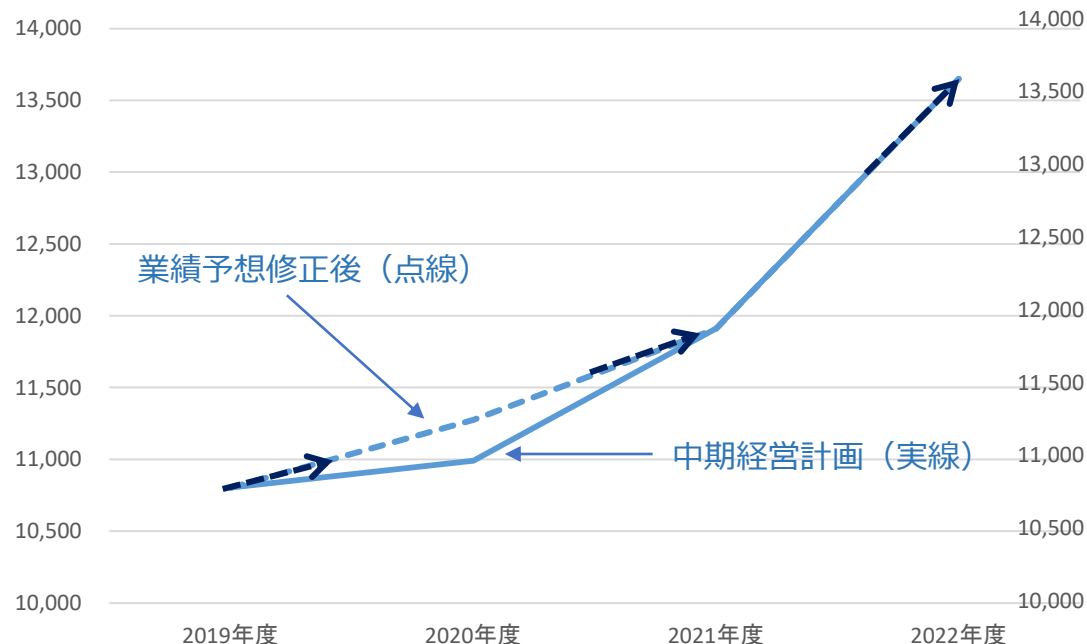
すべての人に
Sustainableな発展を

新型コロナウイルス感染症の影響（2021年度以降）SEC 株式会社 エスイー

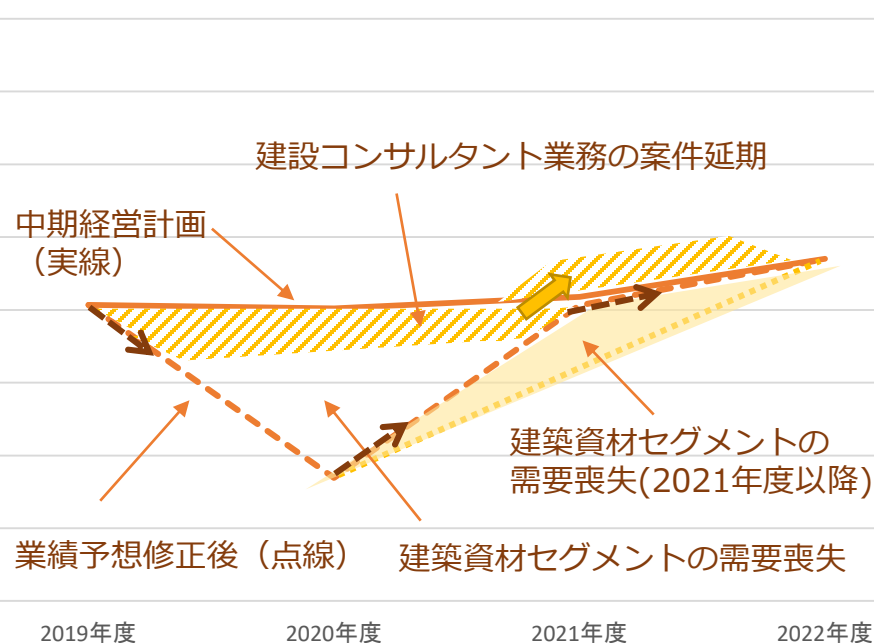
- ・建設用資機材セグメントは、新型コロナウイルス感染症の影響は海外向け以外は軽微で、2020年度の業績予想を上方修正。現時点で2021年度以降を修正する必要はない。
- ・建設用資機材以外のセグメントは、新型コロナウイルス感染症の影響で2020年度に建築資材で約8億円の需要喪失、建設コンサルタント業務で約3億円の案件延期が発生。2021年度以降は建築資材は回復してもある程度の需要喪失が想定されるが、建設コンサルタント業務は延期された分の上乗せを期待。

(単位：百万円)

建設用資機材セグメントの売上



建設用資機材以外のセグメントの売上



現時点では、2021年度以降の大きな見直しはしない

重要な経営指標

- ・2020年度第2四半期終了時点での指標面での進捗状況は、ベトナム・バックダン橋事業運営会社株式の評価損計上により、親会社株主に帰属する当期純利益及びROEがビハインドだが、一過性の要因であり、かつキャッシュフロー・投資余力に影響がないため、最終目標である2022年度の目標値は十分狙える状況。

[基本財務目標]

(百万円)	2020年度 (中期計画)	2020年度 2 Q (実績)	2020年度 (予想)	2022年度 (中期計画)
売上高	23,000	10,149	22,021	26,000
経常利益	700	369	689	1,600
親会社株主に帰属する 当期純利益	400	95	228	1,023

[収益性・配当]

(%)	2020年度 (中期計画)	2020年度 2 Q (実績)	2020年度 (予想)	2022年度 (中期計画)
営業利益率	3.2	3.5	3.1	6.2
ROE	4.8	-	2.8	10%超
株主資本配当率 (DOE)	3.5	-	3.7	3.5%目安

重点注力分野

[建設用資機材セグメント]

(百万円、%)	2020年度 (中期計画)	2020年度 2 Q (実績)	2020年度 (予想)	2022年度 (中期計画)
売上高	10,991	5,415	11,274	13,650
営業利益	536	409	790	1,496
営業利益率	4.9	7.6	7.0	11.0

- ・ 2020年度第2四半期は、人員増強と施策展開開始が中心。具体的な成果はこれからの段階。
- ・ 一部遅れはあるものの、下半期に施策展開を加速させ、来年度以降の飛躍期につなげていく。

2020年度の取組み方針

第2四半期時点の進捗状況

人的資源 設計・調達セクションでの人員増強による 設計・仕入れ体制の増強	△	・ 生産部門の調達セクションの人員を増強 ・ 設計セクションの人員増強は未達
システム投資 営業支援システムの抜本的改訂を実施し、 営業の効率化と情報共有・連携を強化	○	・ 導入PTを立ち上げ、営業プロセスの分析と システム構築に着手、12月完成予定 ・ 1～3月実運用→実用にあわせ調整
設備投資 自動化・IT化による製造や事務作業の 効率化	△	・ 工場設備の自動化は検討段階にとどまる ・ RPA化による業務効率化 （2件運用、3件制作中、2件検討。前年0件）
新商品、新サービス開発 開発会議を新設し、進捗管理の徹底、 組織横断的な取組を強化	○	・ 開発会議を立上げ、運営開始 （開発12件、改良6件 オンスケジュール） ・ 新サービスECサイトの構築に着手
生産部門の最適化 調達先の多様化や適性在庫管理を強化 営業部門との連携強化による全体最適化	△	・ 営業部門・生産部門を鳥瞰する担当役員を任命 ・ 具体的な施策の展開に着手した段階 ・ 次年度より全体最適効果が見込まれる

戦略的資源投入（２）海外事業

- ・ 海外向け建材販売は、新型コロナウイルス感染症の影響による現地活動停滞、渡航禁止により売上高が大幅に落ち込んでおり、収益性の向上に注力。今後は徐々に回復に向かうと予想される。
- ・ 海外事業本部等組織改編は実施。渡航制限等で現地マーケティングに遅れはあるが、体制強化は大幅進展。

[2020年度2Q進捗状況]

2020年度 2Q



中期経営計画

海外向け建材

日系ゼネコン海外案件取引の更なる拡大

実績

×

新型コロナウイルスにより、現地活動停滞、渡航禁止。大幅減収。

徐々に渡航制限緩和、現地活動正常化を見込む
新型コロナ下でも収益性向上を引続き重視

体制構築

海外事業本部 設立

現地化検討

工場建設

稼働

実績

○

海外事業本部設立
体制整備を実施

ベトナム

取扱製品の棚卸・再確認、現地パートナー発掘

現地生産推進

実績

△

製品別市場検証に着手
現地マーケティング遅延

製品別販売方針・
販売施策を立案・実行

VJEC

建設資材内販モデルでの活用

新規ビジネスの発掘

実績

○

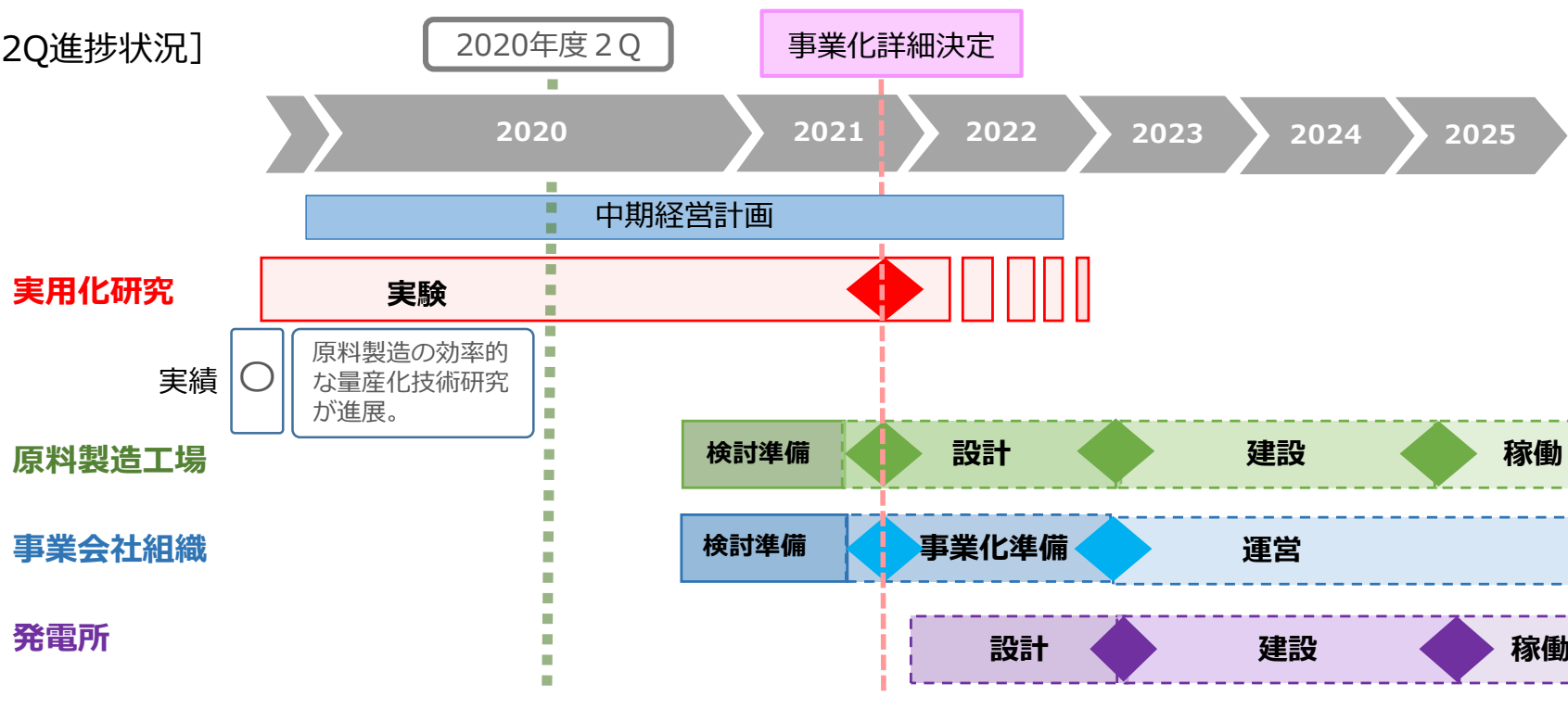
具体的な協業開始

体制強化・協業拡大

戦略的資源投入 (3) プラズマ発電事業

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により研究活動にも困難な環境となったが、原材料製造の効率的な量産化の技術研究は進展。2021年から2022年にかけて事業化詳細決定、発電所稼働が2025年以降の計画は不変。
- ・菅首相の所信表明演説で、政府は 2050 年までに温室効果ガス排出量を全体としてゼロにする目標を正式発表。「地球温暖化対策計画」や「第5次エネルギー基本計画」は、もう一段の脱炭素化で見直される可能性大。

[2020年度2Q進捗状況]



[プラズマ発電事業と政府エネルギー基本計画]

特長

- ・CO2フリー
- ・原材料全て国内調達
- ・消費地に近い中規模発電所（災害に強いエネルギー）

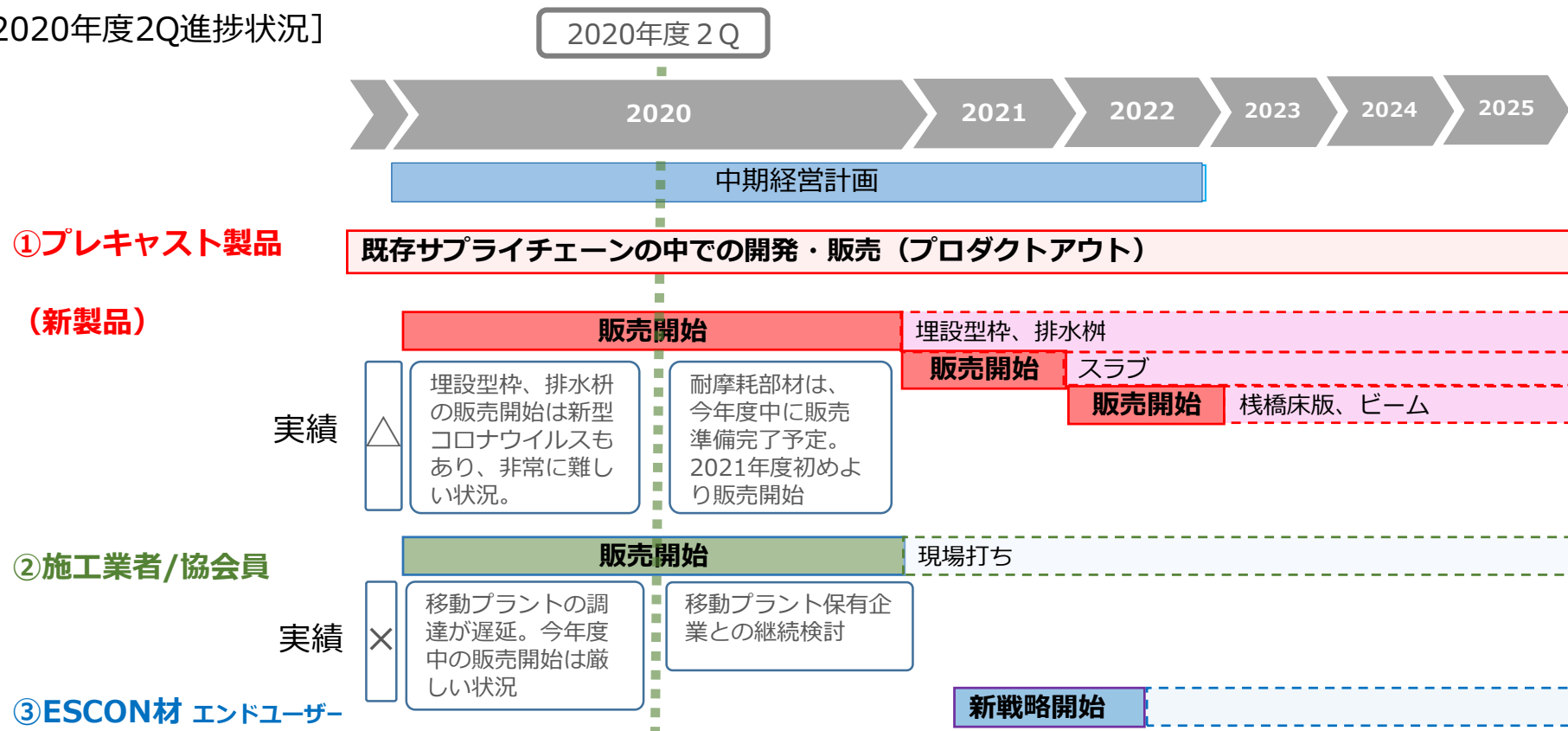
エネルギー基本計画
の基本的視点
3E+S

- ・安全性 (Safety)
- ・安定供給 (Energy Security)
- ・経済効率性 (Economic Efficiency)²³
- ・環境への適合 (Environment)

戦略的資源投入（４）ESCON事業

- ・二次製品開発では、埋設型枠・排水枡を今年度中に販売開始する計画であったが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、いずれも難しい状況。一方、耐摩耗部材は今年度中に営業開始の準備が完了する見込み（2021年4月に販売開始予定）。
- ・現場打ち用のESCON材については、移動プラントの調達が遅延、今年度販売は一旦見送りとなった。

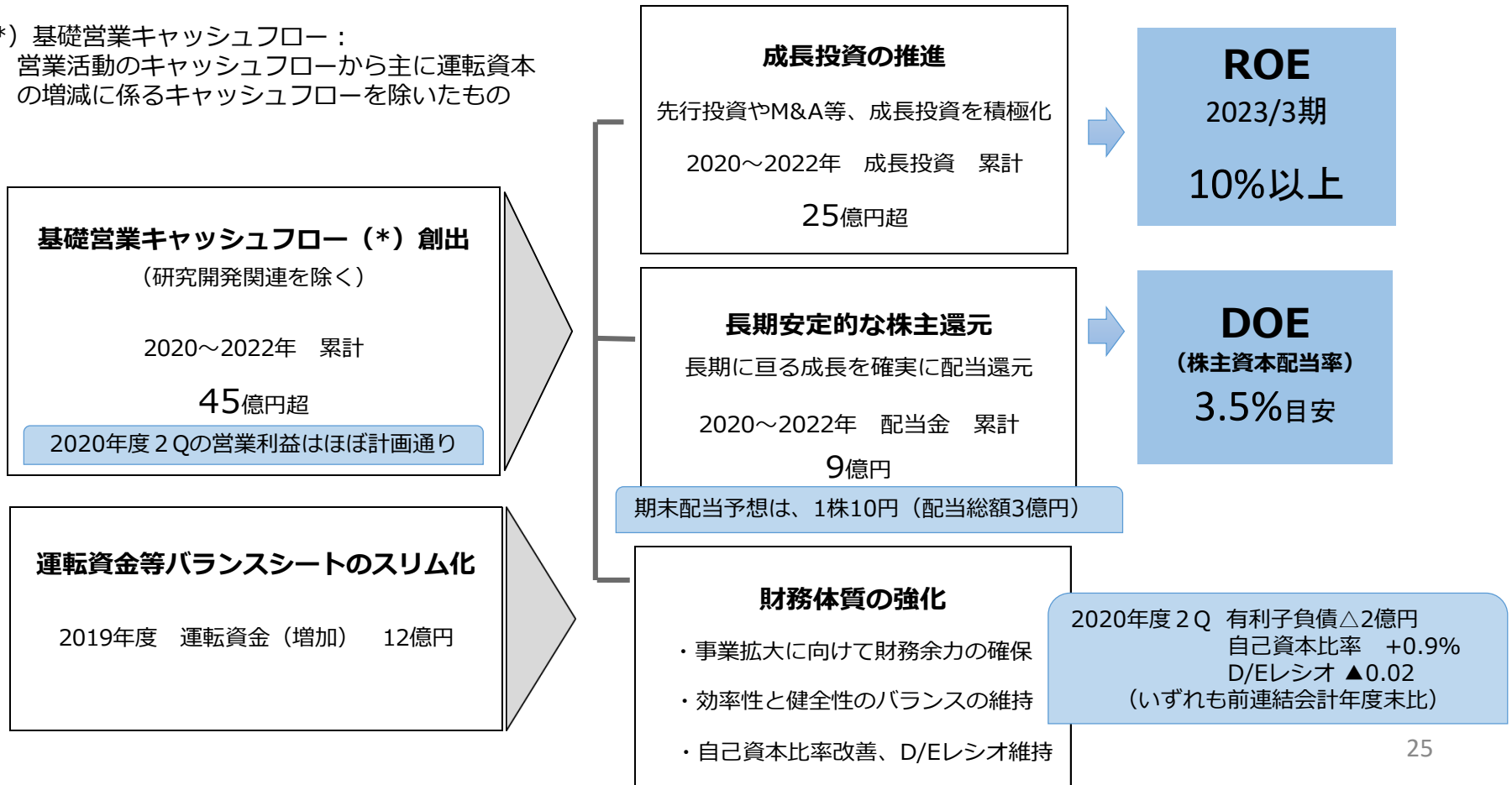
[2020年度2Q進捗状況]



・第2四半期終了時点で以下の方針に基づく計画の実行に大きな差異は生じていない。

- ①本計画中の基礎営業キャッシュフロー(*)は45億円超を見込み、成長投資に優先的に配分。
- ②株主還元は、長期安定配当を基本とし、株主資本配当率(DOE)を目安に決定。
- ③財務体質の強化と合わせ、3つのバランスのもと、資本構成の適正化を推進。

(*) 基礎営業キャッシュフロー：
営業活動のキャッシュフローから主に運転資本
の増減に係るキャッシュフローを除いたもの



将来見通しに関する記述についての詳細〔ご参考〕

当資料は、あくまで株式会社エスイーをより深く理解していただくためのものであり、当資料に記載されたいかなる情報も、当社株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイス目的で作成されたものでもありません。

本資料に記載されている当社の分析、業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、現時点で入手可能な情報に基づく見解や将来の業績に係る見通しであります。これらは現時点で入手可能な情報に基づき株式会社エスイーの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの分析・業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。

International Engineering Maker

